

報道各位

TOKYO FM 開局 48 周年記念式典挨拶 (代表取締役社長 千代 勝美)

～2018年4月26日(木) 午前10時30分 TOKYO FM ホール～

株式会社エフエム東京は、2018年4月26日(木)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM 開局 48 周年記念式典を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。

◇代表取締役社長・千代 勝美 あいさつ◇

ほんの 10 年前と比較しても世の中は革命的に変貌しました。IoT であらゆるものが繋がり、あらゆる情報が集積、分析され、必要な時に必要な情報が提供され、殆どがロボットや AI に置き換わる、そんな世界がやってくるでしょう。しかしながら、情報量が膨張すればするほど自分の関心のある情報に最適化されてしまうというフィルターバブルと呼ばれる現象が起きています。ふらりと入った本屋さんで、たまたま手に取った本が心に染み入り、人生を変えてしまうような感動を得る、そんな偶然の出会いを経験した人は少なくないでしょう。偶然の出会いの中にこそ、人の心を、社会を豊かにする価値があるはずです。メディアの価値は、この偶然の出会い (Serendipity) をもたらすことにあります。我々は、豊かな感性を持ち、これを生み出すキュレーション能力を磨く努力をし続けなければなりません。情報革命、特に通信の高度化、高速化とそれに伴う産業構造の変化の中で未来を展望するときに、我々が担う放送には、いくつもの特筆すべき価値がありますが、本日はその中で、2つの価値に言及してみたいと思います。

ひとつは、玉石混交の情報の渦の中でこそ重要となる、我々メディアとしての信頼性、公平性、公明性、という本質的価値であり、音声を起点としたコミュニケーションによる人の心をつなぐ普遍的な価値です。そしてふたつ目は、地域の文化の多様性を担い続ける価値です。通信の高度化、高速化は、世の中をシステマティックにし、インターネットによるグローバリゼーションは、世界の等質化をもたらします。それは、人類全体のレベルを向上させるでしょうが、突出した、特異な独自性の文化を創ることに必ずしも繋がらない側面もあります。その中で、我々は、JFN38 局一体となって地域の文化の多様性、経済、社会の特質を大事にし、人と人との共感コミュニティを作り、寄り添ってきました。我々はメディア人として、その意識を常に持ち続けることが必要です。

その上で、放送の価値を追求すると同時に通信の高度化、高速化を活用し、融合させることで、更なる可能性を生み出すため、我々もデジタル・トランスフォーメーションを行い、自ら変革していかななくてはなりません。その取り組みが、i-dio 事業でありデジタル・オーディオ・アド事業です。

「i-dio」は、カバーエリアを順次拡大しビジネス環境の整備を進める中、「八六東京 (パーリユー・ドンジン)」という新たなインバウンド・ビジネスもスタートしました。また、この 4 月にいよいよ国内向けのデジタル・オーディオ・アドを組み込んだ WIZ RADIO がリリースされました。変革のこの時代、様々な分野で次々と新たな技術が生まれるでしょう。一人一人が、あらゆる技術変革に関心を持ち、新しい世界を拓けてもらいたいと思います。

そして、イノベーションの根本にあるものはコンテンツの独自の価値です。超多メディア時代では、我々はもはやラジオの中だけでの競争ではなくテレビ、動画・音楽配信サービス、ゲームなど、あらゆるものが競争相手となり、ユーザーの限られた時間の争奪戦を繰り広げなければなりません。今以上にコンテンツに独自の価値を創造し、その価値を向上させ続けることに、我々は、真摯に向き合っていかなければなりません。

既存の枠組みにとらわれることなく、自由かつ柔軟な発想で、未来の TOKYO FM を創り出し、チャ

レンジ精神を持って新しい歴史を刻んで行くことをこの開局記念日にあたり、みなさんと共に改めて誓いたいと思います。

以上